

再びその人らしい生活に

# ふれあいひろば

2021年 冬号 Vol.95

愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション  
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 当院の感染対策について
- 2面 【連載】セラピストだより⑤ / 病院の行事食ってどんなもの？
- 3面 地域クリニックとの連携の中で②
- 4面 患者さまだより② / 連載 高槻在宅サービスセンターだより



写真①

## 当院の

# 感染対策

について

感染対策室 市橋 卓浩

新型コロナウイルス感染症が確認されて、約1年が経過しました。国内においては、医療機関でクラスターが頻発するなど、テレビ等でも連日報道されております。医療機関では日々細心の注意を払っている感染対策ですが、新型コロナウイルス感染症が発生して以降、嚴重に感染対策を行ってもすり抜ける、本当に怖い感染症です。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、地域の皆様や、これからご入院を予定されている患者様にとっては、その病院がどのような感染対策を実施しているのかが、病院選びでの重要なポイントになるかと思えます。また、治療やリハビリテーション等を実施する際は、患者様と医療従事者が接近する場面も多いため、患者様や医療従事者が共に感染しないような対策も必要となります。そこで今回、当院リハビリテーションセンターにおける感染対策を、写真を交えてお伝えさせていただきたいと思えます。

当院では全室24時間空調管理システムを採用しており、密閉空間における空気の滞留がないよう機械で強制的に換気を行っております。また、リハビリテーションセンターを利用される方や、職員等の体調確認は当然ですが、全病室を含め入口には自動の手指消毒剤(写真①)を設置し、入室される患者様全員に手指消毒を実施して頂いております。診療には様々な機器(写真②)を用いられませんが、1人の患者様が使用された物品は机に至るまで全ての機器の消毒を実施しており、定期的に物品の清浄度検査

(ATP測定器)も実施しております。また、消毒済み機器と使用済み機器が一目でわかるような工夫(写真③)をしております。新型コロナウイルス感染症は飛沫が感染経路であるため、従来実施していた検査等が実施できない場合もありますが、患者様の感染性が無いことを確認のうえ必要な検査、治療を開始していきます。加えて各療法士は迅速に感染予防策を実施できるよう、右下(写真④)のような装備を行い治療にあたらせて頂いております。

これらの多くは標準予防策といい、感染の有無に関わらず全ての方に実施するものとしています。しかしながら、医療従事者の対策のみでは完全に防ぎきれないのが新型コロナウイルス感染症です。当院をご利用される患者様、ご家族様にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、職員一丸となって対策を行ってまいりますので、引き続き感染対策へのご協力をお願い致します。



写真②



写真②



写真③



写真④



# 当院の作業療法

作業療法科 塚本 賢司

作業療法では、脳梗塞などで身体が麻痺して自由に動かすことが困難になった方に、手芸や工芸などの作業活動を通して、姿勢の改善や手の麻痺の治療を行います。当院の作業療法では手の麻痺の改善のために伝統的な作業活動とともに電気治療器機などの最新の医療機器や治療効果が高いと言われて



いる療法を導入した治療を行い、生活動作の改善を図っています。

手足は、脳からの運動の指令が神経を通して筋肉に伝わり動かすことができます。脳が損傷すると運動の指令が弱まったりして、筋肉まで伝わることに困難が生じます。電気治療器機は、弱まった運動の指令により上手に動かせない筋肉に対して電気で刺激することで運動のサポートを行い、機能の改善を図ります。また麻痺している手だけを積極的に使用して運動の強化を行うことで麻痺を改善していく療法も行っています。どちらも実施後は、着替えや入浴動作などの生活動作が行いやすくなり、治療効果が得られています。

今後も医療は進歩し続けると思いますが、その時代の流れに乗り遅れず、より良い作業療法が提供できるように尽力していきます。



## 病 院 の 行 事 食 ってどんなもの?

栄養管理科 岡本 泰幸

入院中に少しでも季節感や癒しを感じて翌日からの活力となることを目的に当院では月に1度ではありますが行事食を提供しています。今回は当院の行事食を春夏秋冬に分けてご紹介させていただきます。

春は桜の季節ですので、3月のひな祭りでは桜蒸しを用意しています。メニュー名に見合うよう道明寺粉をピンク色に染め桜の花びらを使用し、蛤や菜の花も用いて春の訪れを感じられるように演出しています。

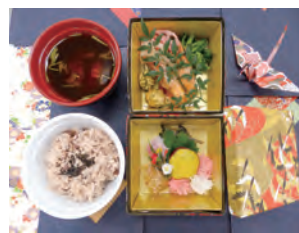
夏の七夕といえば「そうめんの日」で、季節柄どうしても食欲の低下があるため、麺類は食べやすいメニューとなっています。また、麺類が食べられない方には、ふつくらした鱧に銀鮓をかけ梅肉を添え、さっぱりとした食べやすい内容にしています。

秋といえば様々な美味しいものが出てくる

季節ですね。そんな秋の行事食と言えば敬老の日でございます。折箱に詰めるのは70歳以上の方限定ですが、薩摩芋、柿なます、鰯等の季節の食品を使用し、全て手作りで用意しています。

冬は年末から年始にかけて目白押しとなっています。この時期は自宅や家族と過ごしたい気持ちが強く出てきますので、その想いに応えられるようにクリスマスではチキンピラフや牛フィレのステーキ、三が日もお正月の特別メニューを提供しています。

行事食の後は患者様からは多くのお手紙や声を頂いています。お礼の手紙を頂く度に、手作りで頑張った良かった!と栄養士・調理師は日々の励みとなっています。これからは患者様に喜んでもらえる行事食を目指して、取り組んで参ります。



▲1月 お正月



▲3月 ひな祭り「桜蒸し」



▲12月 クリスマス



# しんあい病院



内科／神経内科／消化器内科  
循環器内科／小児科／放射線科  
外科・整形外科／肛門外科／リハビリテーション科

〒569-1123 大阪府高槻市芥川町2丁目3-5

TEL072-681-5533

しんあい病院は昭和38年にJR高槻駅西口近くで開院した深井病院を前身とし、地域の人々の生活に密着した医療を提供する病院です。生活習慣病をはじめ、一般的な外科・整形外科疾患、小児科では予防接種やアレルギーに対する検査・治療を行い、また、通院が困難な患者様には訪問診療を実施しています。今回は訪問診療を担当している世戸博之先生にインタビューしました。

## 訪問診療を拡充した経緯

高齢化に伴い、フレイルや慢性的なご病気を抱える患者様が増えてきました。そのため、病気単体ではなく全身を総合的にケアする必要性が高まっています。そのような背景の中、病院への通院が難しい患者様でも住み慣れた環境で生活を続けられるような医療が求められており、訪問診療を拡充する方針になりました。

## しんあい病院の訪問診療の特徴

訪問診療の対象は定期的な通院が困難な患者様で、訪問範囲はしんあい病院を中心に半径5km圏内です。がんや慢性心不全、肝硬変、認知症など様々な病気に対応しています。胃ろうや在宅酸素、床ずれ、気管切開、膀胱留置カテーテルなどの医療処置も可能です。終末期の患者様なども対応できるよう24時間365日訪問できる体制を整備しています。

## 地域の方々に一言

患者様の尊厳を守り、住み慣れた生活環境で安心して医療を受けていただけるよう、1人1人にあったオーダーメイドなケアを提供できるようにしていきたいと考えています。ケアマネジャーや訪問看護師など多職種チームで患者様を支え、その人らしい人生を送っていただけるようお手伝いをさせていただきます。

## \*診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
(内科) 13:00~17:00	●	●	●	—	●	—
(外科) 14:00~17:00	●	●	●	●	●	—

(休診日) 土曜の午後・日曜・祝日

- ・ご予約:前日までにお電話又は外来窓口へ
- ・小児科は完全予約制

## \*アクセス JR高槻駅西口から徒歩約5分



## 患者さまだより

Uさんは、頸髄症性脊髄性の手術を受けられ、当院で2ヶ月半のリハビリを経て、ご自宅に退院されました。今回退院後の生活のご様子についてお伺いしました。

今は週2回訪問リハビリ利用し、理学療法士の方と歩行距離が延ばせるように屋外歩行訓練をメインにされています。

日課として、起床後、午前中に散歩に行き、昼から自宅でトレーニングし、コーヒーを飲みながら休憩タイムを設けておられ、日課の散歩は、1時間程度歩行しておられます。退院当初は、不安視されていた持久力もついてこられ、ご自身も少しずつ続けることが大事だと実感されておられます。

元々行っておられた公園やなじみの喫茶店に歩いていきたいという目標に向かって日々頑張っておられます。引き続き目標に向かって頑張ってください。ありがとうございました。

地域医療部 木村 泰美



## 愛仁会高槻在宅サービスセンターだより

訪問リハビリテーションは大人だけではなくお子様のお宅にも訪問させていただき、発達の支援なども行っております。今回は退院後から訪問看護と訪問リハビリを利用されているKくんをご紹介します。

Kくんは予定日より約4カ月早く生まれましたが頑張つて成長し、自宅に退院されました。退院するにあたり在宅酸素を持って帰ることになり、訪問看護がスタートしました。その後、体重も少なく発達支援が必要であったため、退院約2カ月後より理学療法が開始となりました。早産児の特徴として筋力が弱く、足を上げることや手を顔の前で合わせるなど背中を丸くするような姿勢を保持することが苦手な事があります。その状態が続くと腹筋などの筋力がつきにくく、這い這いや歩行が遅れることがあります。Kくんもこのような姿勢を保持することが苦手でした。そこで、うつ伏せなど様々な姿勢保持の練習で筋力をつけること、振り返らないような抱っこ方法の指導やおもちゃの選定・誘導方法などアドバイスをなどを

## お子様とご家族が安心して過ごせるための発達支援

愛仁会リハビリテーション病院 在宅支援科  
山下 真人

行いました。訪問リハビリ開始時は首もすわっていませんでしたが3カ月後には寝返りも獲得し、お座りの練習も行えるようになりました。このように小児の訪問リハビリテーションでは、医療的なケアが必要なお子様に対して医師・看護師と連携しながら運動発達の支援を行います。

【Kくんお母さんのコメント】  
訪問リハビリに来てもらい運動発達のサポートをもらえて、おもちゃで遊んだり、寝返りをしたり、バンポに座ったりなど出来ることが増えました。訪問リハビリを利用して良かったです。

